

CVFB

調布市消防団
広報誌

第2号

平成23年(2011年)1月9日 通刊第2号 発行/調布市消防団事務局 東京都調布市小島町2-33-1 文化会館たづくり西館3階 総合防災安全課内 TEL 042-481-7348

調布市消防団長
恩田哲男

動に一層のご理解とご協力を賜うことを
お願い申し上げます。本紙がその
一助となることを祈念し、新年のごあい
さつとさせていただきます。

結びに、市民の皆様には消防団の諸活
動に、市民の皆様には消防団の諸活
動に、市民の皆様には消防団の諸活
動に、市民の皆様には消防団の諸活

動に、市民の皆様には消防団の諸活
動に、市民の皆様には消防団の諸活

新年あけましておめでとうございます。
市民の皆様におかれましては、輝かしい新春を迎えられ
たこととお慶び申し上げます。
さて、昨年一年間の調布市消防団の活動を振り返ってみ
ますと、やはり2年ぶりに開催した消防ポンプ車操法大会
が挙げられます。ホースカーを使用したの操法大会は初め
てにもかかわらず、15個分団とも熟練した技術を存分に
披露いたしました。これは、各団員が多忙な生業の傍ら、
厳しい訓練スケジュールをこなした成果であり、本大会
を通じて各団員の技術力はもちろん精神面において、よ
り一層磨きがかかった結果と言えるこ
とができます。

CONTENTS

分団紹介&写真で見る分団活動	P2
消防ポンプ車操法大会が実施されました	P3
消防団の今後の行事予定	P3
消防歴史写真館	P4
第1分団消防ポンプ車更新	P4
分団担当区域図	P4



調布市消防団は、本部および全15個分団体制で
消防団長以下304名により構成されています。
団員は、火災、河川の氾濫や地震などの災害時に市
民の皆様の安全・安心を守るために、日夜消防活動
に取り組んでいます。

分団紹介

調布市の各地域を担当する分団の紹介です。
今号より3個分団ずつ、分団長からのコメントと分団の活動写真により紹介していきます。

第1分団

我々第1分団は、調布市の西部、飛田給地域を主とし西
町野水を担当しております。
「自分たちの町は自分たちで守る」をスローガンに、突然
の災害に対処できるように日々訓練や器具点検を行って
おります。また、消防活動以外にも地域の防災訓練に参加
するほか、お祭りや運動会などの地域の催し物での警戒や交
通整理、児童の社会科見学の受け入れなど、地域に密着し
た活動に積極的に取り組んでおります。
昨年11月には、最新型の消防ポンプ車が配備されたこと
から、地域防災の要という意識をこれまで以上に強く持ち、
これからも地域を守り続けて参ります。

第1分団長 増岡良和



チェックリストを手に綿密な点検を行う



京王線における救助訓練



地域の人々と一緒に救護訓練



救命救急技能を実演する



盛夏服着用でお祭りの警備にあたる(写真中央)
火災に備えて消火栓の点検・清掃を行う



第6分団

我々第6分団は、国領町を主とし染地・八雲台・多摩川河川
敷を担当しています。日頃は、火災や風水害を想定した訓練
を行うほか、地域のイベントの警備や自治会などが実施する
防災訓練の支援など、地域に根差した市民のみなさまに信頼
される消防団を目指して活動しています。また、消火活動の
基本動作を全分団で競う消防ポンプ車操法大会においては、
過去19回中12回優勝した実績を有しています。
分団員の年齢・職業は様々ですが、今後も分団員全員が市
民のみなさまの生命財産を守るという強い意志を持って、地
域の防災リーダーとして活動して参ります。

第6分団長 大沼和



みぞれの中での点検。悪天候を物ともしない



今年度の操法大会も入賞



後輩への指導に熱が入る



資機材のチェックは欠かせない



非常に重たいホースカーも
力を合わせてポンプ車に載せる



未来の消防団員たちとふれあう

第11分団

西つつじヶ丘全域および菊野台地域を担当している
第11分団です。
私たち消防団は、団員各自が生業を持ちながら火災発生時に
は被害を最小限に抑えるために日夜、消防活動に取り組んでいま
す。また、いつ発生するか分からない様々な災害に際して、安全か
つ適切な対応を迅速にとれるよう、日頃より訓練や消防ポンプ車
を始めとする消防資機材の点検等を行っています。また、地域で
行われる防災訓練やお祭りなどの各種事業にも積極的に参加支
援するなど、より一層地域に必要とされる消防団を目指していま
す。今後とも精力的に消防活動に取り組んで参ります。

第11分団長 富沢寿夫



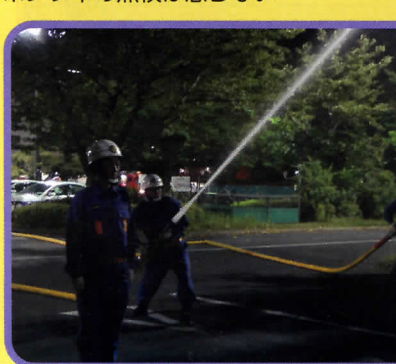
ポンプ車の点検は怠らない



出初式では炊き出しを実施



第11分団出場！



夜間訓練を実施する



防災訓練では
救護訓練にも携わる



消防機材の操作は確認し合いながら

第18回

ホースカーによる
消防ポンプ車
操法大会

平成22年10月24日(於・消防大学校)

1.開会式～選手宣誓

全分団員が整列し、消防団長に選手宣誓を行います。
今回は第7分団・土方康全分団長が行いました。



全分団員の整列

消防団長へ
選手宣誓

2.整列～操法開始

実施分団の選手がポンプ車後方に整列待機します。指揮官が副団長に開始報告を行い、操法開始です。



整列待機。最も緊張感が高まる瞬間



副団長に開始報告を行う



操法開始！隊員が動き始める

3.ホースカー降車～吸水

操法が開始されました。放水のために水利を確保し、ポンプ車からホースカーを降ろします。



水槽に吸水管を投入し、水を吸い上げる



迅速にホースカーを降車させる



ポンプ車にホースを接続する

4.ホース延長～構え

ホースカーを使用して放水位置までホースを一気に延長します。延長後は、管槍(かんそう)と呼ばれる放水をコントロールする器具を取りつけ、準備完了です。



放水位置まで全力疾走



ホース先端に管槍を装着して...



放水準備完了！

5.放水～倒的

いよいよ放水です。水圧に負けないようにしっかり構え、わずかに数十センチの的めがけて放水します。



お見事！「火点」に命中

6.表彰式

全15個分団の操法が終わりました。タイム、規律等の項目で特に秀でた上位5個分団が表彰されます。今回は第10分団(鈴木太分団長)が見事優勝を果たしました。



優勝した第10分団

消防団長より
表彰を受ける

見事入賞を果たした分団

順位

優勝 第10分団
第2位 第6分団
第3位 第15分団
第4位 第4分団
第5位 第7分団



出初式一斉放水の様子

ほか、地域の防災訓練や催事等にも参加しています。
(予定は変更される場合があります。各行事の詳細は消防団事務局までお問い合わせ下さい)

7～8月 総合防災訓練
8月下旬 北多摩地区消防大会
9月下旬 震災消防訓練
10月下旬 秋の火災予防運動
11月9～15日 歳末消防特別警戒

5月中旬 基本操法訓練
4月1日 総合水防訓練
3月3～4日 調布市花火大会警備

3月1～7日 春の火災予防運動
3月1日 深大寺だるま市警戒

1月9日 出初式
1月26日 深大寺文化財防火演習
3月1日 機械器具特別点検

平成23年の主な予定



新しいポンプ車をバックに

第1分団の新しい「顔」



これから地域の安全を
背負って立つ

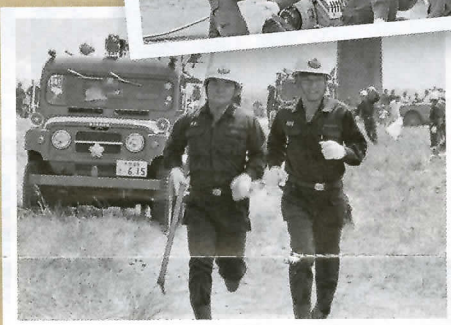
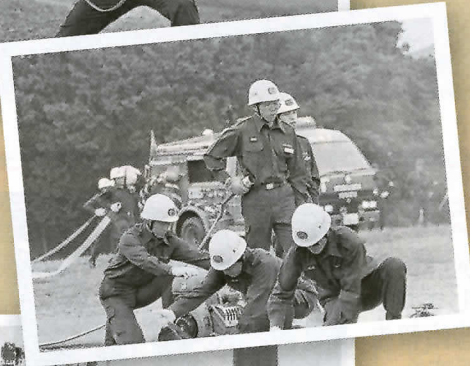


様々な新鋭装備を搭載



第1分団 消防ポンプ車更新

平成22年11月24日、第1分団の消防ポンプ車の更新に伴い、市から消防団への引渡式が開催されました。ポンプ装置の制御盤をデジタル式にしたほか、高輝度のサーチライト等、新鋭の装備が搭載されました。今後、第1分団の主戦力として災害現場で活躍します。



消防歴史写真館

昨年、実施いたしました調布市消防団ポンプ車操法大会は、昭和43年に第1回目を実施してから、昭和60年に実施した市制30周年記念大会を含めて、19回にわたり開催してきました。操法大会を開催する年は、各分団がより一層訓練に取り組み、操法技術の研鑽と工夫を重ねております。操法技術は迅速な消火活動の基礎であり、今日の火災現場でも遺憾なく発揮しております。

分団担当区域図

消防団15個分団はそれぞれ担当区域を持ち、主に担当区域内の火災等に出場します(延焼危険度の高い火災時には隣接区域にも応援出場することがあります)。15個分団の機械器具置場は、消防ポンプ車をはじめとする消防資機材を収容しており、災害出場や警戒活動における消防団員の活動拠点となります。



※①～⑮は分団名

つけましたか？住宅用火災警報器

火災から大切な家族を守るために、住宅用火災警報器を早期に設置しましょう！

平成22年4月1日からすべての住宅に住宅用火災警報器の設置が必要です。

お問い合わせ：調布消防署 ☎042-486-0119



「病院へ行った方がいいのかな？」迷ったら
「救急車を呼んだ方がいいのかな？」

東京消防庁救急相談センター 24時間対応 年中無休

#7119

つながらない場合は…

多摩地区 042(521)2323

23区 03(3212)2323

東京消防庁 東京都医師会 東京都福祉保健局

消防団員募集!



調布市消防団と地域みなさまが
あなたの力を待ち望んでいます!

お問
い
合
せ

調布市消防団事務局
(調布市役所総合防災安全課内)

☎ 042-481-7348

入
団
資
格

調布市に居住しており、
年齢18歳以上の健康な方